

# 平成28年度 学校自己評価システムシート

(埼玉県立熊谷女子高等学校)

目指す学校像	1 自主自律の精神と豊かな人格を有し、次世代の社会をリードする心身ともに健康な生徒を育成する。 2 地域に信頼される進学校として、生徒の第一志望の進路を実現させる。
--------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割以下)

重点目標	1 豊かな人間性と社会性を育む教育を展開し、高い志を持った次代を担う女性を育成する。 2 SSHや骨太リーダー育成事業などの取組を活かし、質の高い授業を行い、学力を向上させる。 3 きめ細かな進路指導や学習指導に取り組み、生徒一人一人の第一志望の進路を実現させる。 4 伝統ある本校の生徒としてふさわしい生活習慣を身に付けた、自らを律し行動できる生徒を育成することにより、地域に信頼される学校づくりを行う。
------	--

出席者		
学校関係者	名	
生徒	名	

学 校 自 己 評 価					平成28年度評価 ( 月 日 現在 )		
平成28年度目標					評価項目の達成状況		
番	現状と課題	評価項目	具体的な方策	方策の評価指標	達成	次年度の課題と改善策	
1	◇部活動や委員会・生徒会活動、学校行事に積極的に取り組む生徒が多い。部活動では昨年度、運動部・文化部ともに大きな成果をあげている。その他、地域の施設や学校を訪問して奉仕活動を行ったり、国際性育成のため、ニュージーランド姉妹校と交流を行ったりしている。教育活動全般を通じて、高い志や使命感を育成し、次世代をリードする生徒を育成する必要がある。	次世代をリードする生徒の育成	①地域の高齢者施設や小学校、中学校等で福祉活動や児童・生徒支援等を行う。 ②派遣と受入によりニュージーランド姉妹校との交流を推進し、また、ハーバードMIT派遣に生徒を参加させるなどして、国際性育成の一助とする。	①生徒が昨年度と同数程度以上、地域の施設や学校等を訪問できたか。また、新たな学校等と連携できたか。 ②生徒の変容がみられたか。ハーバードMIT派遣生徒数が昨年度より増加したか。			
2	◇SSH4年目の昨年度は、全国発表会でポスター発表賞を受賞するなどの成果を得た。今年度は5年目となり、第1期SSHの総括と第2期の申請を行う。高倍率が予想される中、カリキュラムの改善等を行い第2期の認可を得ることが課題である。また、SSHや骨太リーダー育成事業、学校間ネットワーク等を活用して、生徒の思考力・判断力・表現力等を向上させる取組の研究を進める必要がある。	SSHを活用した学校組織力の向上	①第1期SSHの総括を行う。 ②カリキュラムの改善等を行うとともに、第2期SSHの理念や目標を明確にしたうえで申請を行う。	①アンケート等の結果から、生徒がどのように変容したか。どのような成果が得られたか。 ②カリキュラムの改善等が図られたか。第2期SSHの認可を得ることができたか。			
		思考力・判断力・表現力等を高める授業力の向上	①他校や外部機関と連携し、生徒の思考力・判断力・表現力等を高めるための研究や研修会等を行い、授業力の向上を目指す。	①授業アンケート等の結果より、授業力が向上したか。また、授業研究が進んだか。			
3	◇様々な進路行事や生徒面談などとおして、女子校のニーズに合わせたきめ細かい進路指導を行っている。昨年度は一昨年度と比べて、センター試験5教科の平均点アップや国立大学合格者数の増加などの成果を得た。一方で、評議員・懇話会委員等からはさらなる進学実績の向上が望まれている。生徒一人一人の第一志望の進路を実現するため、組織的・効果的に取り組む必要がある。	進学実績の向上	①進路指導の研究や取組を分掌、学年、委員会等で行い、生徒の第一志望の進路実現を目指し、進学実績を向上させる。 ②進路データ、適性等を踏まえたきめ細かい指導や補習を実施し、センター試験の平均点を向上させる。	①進路指導目標の実現に向け十分な研究や取組ができたか。 ①合格実績目標値(現役) 国公立大学60名・早慶上理ICU30名・G-MARCH100名以上 ②2016センター試験結果と比べ向上したか。			
4	◇伝統ある熊女の生徒としての品格を身に付け、自らを律した行動ができるように生徒指導を行っている。全教職員の共通理解のもと、生活指導や心のケア等の対応を充実させる必要がある。 ◇塾や中学校に出向いて行う学校説明会・相談会が例年40回程度ある。内容を精選して熊女の魅力を発信するとともに、入学者選抜の倍率に反映されるように効果的な広報活動を行う。	全教職員協力による生徒指導、心のケア等の充実	①全教職員による挨拶・身だしなみ・登校・完全下校指導を行う。 ②関係機関と連携を行うとともに、校内支援委員会を定期的実施し、生徒情報の共有と適切な指導を行う。	①全教職員による組織的な生活指導に取り組めたか。 ②個々の生徒に対し教職員の共通理解が図られ、様々な生徒の対応に取り組めたか。			
		効果的な広報活動の実践	①校内・校外で実施する学校説明会・相談会の内容を精選し、効果的な広報活動を行う。 ②学校ホームページの更新を行い、最新の情報を発信する。	①学校説明会で工夫が図られたか。また、入学者選抜の倍率が昨年度と同程度以上か。 ②学校ホームページアクセス数が昨年度と同程度か。			

学校関係者評価	
実施日	平成29年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等	